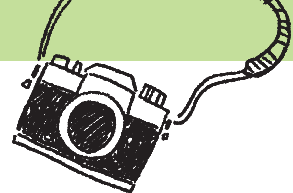


# まちの話題



11月15日、北本トマト栽培100周年を記念するイベント「北本カレーフェスティバル2025」と、縄文のまち北本の縄文文化を体感するイベント「きたもと縄文まつり2025」がサンアメニティ北本キャンプフィールドで同時開催されました。当日は約3,500人が来場し、会場は終日活気に包まれました。

カレーフェスティバルでは、ご当地グルメ「北本トマトカレー」に加えて全国各地のご当地カレーなど、合計15店舗が出店し、各店舗の工夫を凝らしたオリジナルメニューが注目を集めました。家族連れや友人同士、学生や高齢者など多様な層が集まり、会場に漂うスパイスの香りや各店の個性あふれる盛り付けとカレーの味わいを楽しむ姿が多く見られました。



## 北本カレーフェスティバル&きたもと縄文まつり



縄文まつりのステージイベントでは、デーノタメ遺跡の出土品を模したオカリナの演奏や縄文トークショー、「縄文太鼓」のライブ、インドの打楽器「タブラ」やピアノなどを交えた音楽セッションが披露され、来場者を縄文の世界へと誘いました。

また、市民団体「デーノタメ縄文の杜プロジェクト」による弓矢・クルミ割り・火起こし体験や土器焼き体験などの縄文ライブを体感するコーナーや、「カレー探検家いよちゃん」によるカレーフェスとタイアップした「北本縄文デーノタメカレー」の出店、さらに、昨年度開催された「『きたもと縄文みやげ』開発アイデアコンテスト」優秀作品の展示・販売会、会場周辺をめぐる縄文ガイドツアーなどが行われました。

暖かな日差しの中、「カレー」と「縄文」という北本を代表するコンテンツを存分に堪能できる一日となりました。

## 年代も障がいの有無も関係なく、皆がつながる「きたもと福祉まつり」

「笑顔でつながる地域の輪」をテーマに、誰もが楽しみながら福祉に触れる「第41回きたもと福祉まつり2025」が11月30日、市役所・児童館・本町公園等で開催されました。当日は、福祉事業所やボランティア団体、地元企業・商店や学生団体等全44のブースが出店し、多くの来場者が買い物やワークショップ、音楽ライブなどを楽しみました。

本町公園では、「防災エリア」として子どもの居場所づくりネットワーク「きたもとBASE」の炊き出しや、被災地支援を行う学生団体による避難所用の段ボールトイレづくり体験等が行われ、楽しみながら防災を学ぶ親子連れでにぎわいました。

庁舎ホールでは、子ども向けの体験ブースや視覚障害者協会のマッサージ等のほか、北本市立図書館がデージー図書（※）や電子図書館、大活字本・点字の本等を展示。図書館の担当者は、「障がいの有無に関係なく図書館をご利用いただけるよう、工夫された図書やサービスがあることをより多くの方に知っていただきたいです」とのことでした。

芝生広場ではフラダンスやバンド演奏が披露され、福祉事業所職員等で構成される「クンパクンパ」の演奏では、小さなお子さんから出店者の皆さん、学生や手話サークルの皆さんなどが一緒になって曲に合わせて体を動かし、「笑顔でつながる地域の輪」を表現していました。



※デージー図書…視聴覚障がい者向けのデジタル録音図書

## 総合公園 イルミネーション点灯中

12月6日から、総合公園で恒例のイルミネーションの点灯が始まりました。毎年追加される手作りのクリスマスイルミネーションなどを楽しみに、多くの人が訪れていました。

日の入りとともに点灯し始めるイルミネーションは、夜が深まるとともに、いっそう冴え冴えと輝き、幻想的な空間を生み出します。今年は土・日曜日を中心にキッチンカーの出店もあります。ぜひ、普段とは一味違う、夜の公園を楽しんでみませんか。

### イルミネーション実施期間

1月12日（月・祝）までの17:00ごろ～22:00ごろ  
★16:30～19:00は、管理棟でアンケートに回答すると、スーパーボールが当たるくじ引きに挑戦できます。

場 総合公園（☎592-4050）

